

施策評価シート （評価対象年度：平成30年度）

1. 基本的事項

①施策名〔施策小〕	1 観光協会の充実支援	②施策番号	3409
③まちづくりの方向〔政策(章)〕	3 産業の活力が増し、賑わいと交流が生まれるまち		
④基本施策〔施策大(節)〕	4 豊かな地域資源を有効に活かし、さまざまな人々が行き交う観光・交流のまちをめざします		
⑤基本的方向〔施策中〕	1 観光機能・体制の充実		
⑥担当部名	⑦担当課名		
市民生活環境部	産業観光課		

2. 施策の現状把握

[1] 施策の対象・意図

①施策の対象(誰、何に対して施策を実施するのか)	泉南市観光協会
②意図(対象をどのような状態にしたいのか。何を狙っているのか)	自立し自主運営を行うことによって、地域の観光事業の実施主体となる。
③環境(この施策を取り巻く状況はどのような状態なのか、また、国や府の動きはどのような状態で、今後どのように変化していくと考えられるか)	国は、地方創生事業において、「日本版DMO」(観光地域づくりの舵取り役を担う法人)の設立を掲げており、大阪府及び泉州地域においても広域的なDMO設立に向けた取組が端緒についたところである。

[2] 施策指標及び推移

施策指標(成果指標)	単位	指標とした理由・考え方
① 泉南市における休日滞在人口 計算式:	人	本市総合戦略において、地域経済分析システム(Resas)における本市休日滞在人口率を数値目標として掲げているため。
② 計算式:		
③ 計算式:		

指標名	単位		H28実績	H29実績	H30実績	R1見込	R2目標	備考
① 泉南市における休日滞在人口	人	目標値	160,000	160,000	160,000	160,000	160,000	地域経済分析システムを活用
		実績値	130,000	130,000	130,000	—	—	
		達成率	81.3%	81.3%	81.3%			
②		目標値						
		実績値						
		達成率						
③		目標値						
		実績値						
		達成率						

[3] 施策を構成する事務事業

	事務事業名	成果指標				総事業費(千円)			事務事業評価結果		重点化	
		指標名	単位	H29実績	H30実績	R1見込	H29実績	H30実績	R1見込	総合評価		今後の方針
1	観光振興事業	泉南市における休日滞在人口	人	130,000	130,000	—	15,581	24,388	22,248	A	ア	◎
2												
3												
4												
5												
6												
7												
8												
計	1						15,581	24,388	22,248			

3. 施策の評価

評価の視点	説明・コメント等
①本施策の意図すること(目的)は、上位施策(施策中)の達成にどのよう貢献しますか。 (施策所管課等としての考えをお示ください。)	既存の資源を活用して新たな観光資源、ルートを発掘し、積極的に情報発信することによって、本市の活性化と交流人口の増加に寄与する。
②本施策で設定した指標から何が読み取れますか。 (2[2]の表の数値の推移から分析できることをお示ください。)	本市における交流人口は、ここ数年変化しておらず、活況を呈する関西国際空港のインバウンドを的確に取り込めていない。
③本施策において市民、団体等との役割分担や市の関与は適切ですか。 (施策所管課等としての考え(理想と現実)をお示ください。)	観光事業の実施主体は、市民(観光協会、事業者等)であるため、今後も補助事業において積極的に進めることが適切。
④施策を構成する事務事業は適正ですか。 (2[3]を踏まえ、施策目標に対し事務事業にずれはないか、数は適正かについて考えをお示ください。)	国の観光立国に向けた取組に沿った事業を進めるため、本市観光協会が主体となりにぎわいを創出する必要がある。
⑤施策を構成する事務事業の中で重点化及び縮小化についてどのように考えますか。 (2[3]において、◎、○、▲とした理由をお示ください。)	観光事業の実施主体は、市民(観光協会、事業者等)であり、観光協会の自立に向けた取組は日本版DMO(地域の「稼ぐ力」)を引き出すとともに地域への誇りと愛着を醸成する。協会は、「観光地経営」の視点に立った観光地域づくりの舵取り役として、多様な関係者と協働しながら、観光地域づくりを実現するための戦略を検討し、その戦略を着実に実施するための調整機能の醸成に繋がる。

4. 一次評価(所管課評価)

一次評価	評価(A~D)	課題等	A: 施策達成に向けた取組や展開などが大変評価できる
	B	儲かる地域の実現に向けて、閑空のインバウンドを的確に取り込むためには、さらなる観光協会の自立に向けた支援が必要。	B: 施策達成に向けた取組や展開などが適切に行われている C: 施策達成に向けた取組や展開などが適切に行われているものの、改善の余地がある D: 施策達成に向けた取組や展開などが不十分であり、改善の余地が大いにある

5. 改革、改善案

即時的対応 (すぐに取り組む改善案)	観光協会の組織の改編を進め、人材育成と併せて自主運営を進める。 「泉南市観光振興ビジョン」の進捗を管理する。
短期的対応 (1、2年のうちに取り組む改善案)	観光振興ビジョンに基づき、自主運営が可能となる取組を進めるため、法人化に向けた検討を行う。
中長期的対応 (3~5年をめぐりに取り組む改善案)	観光振興ビジョンに基づき、観光協会の自主自立を進め、法人化を進める。

6. 二次評価(行革・財産活用室評価)

二次評価	評価(A~D)	課題等	A: 施策達成に向けた取組や展開などが大変評価できる
	B	成果指標である休日滞在人口は横ばいを維持している。 今後の泉南市への訪問者増加のため、泉南市観光協会の自主運営に向けた機能、活動の充実強化への支援を継続して進められたい。	B: 施策達成に向けた取組や展開などが適切に行われている C: 施策達成に向けた取組や展開などが適切に行われているものの、改善の余地がある D: 施策達成に向けた取組や展開などが不十分であり、改善の余地が大いにある